コード No. 11088

Anti-Human
sAPPα (2B3) Mouse IgG MoAb

容量 ： 100 µg

はじめに ： アミロイド前駆体タンパク質(APP) はアルツハイマー病における老人斑の主要構成成分であるアミロイドβ(Aβ) の前駆体タンパク質であり、スプライシングの違いから主に3種のアイソフォーム(APP695, APP751, APP770)が存在します。このタンパク質の代謝経路の主なものは、αセクレターゼ、γセクレターゼによる切断を受ける経路 (Aβ非産生経路)とβセクレターゼとγセクレターゼによる切断を受ける経路 (Aβ 産生経路)です。前者の代謝経路からは、切り出されたAPPのN末部分が分泌型APPα (sAPPα)として産生され、後者の経路からは分泌型APPβ (sAPPβ)とAβが産生されます。Aβドメイン両端、つまりβセクレターゼ、γセクレターゼ切断部位近傍のAPP遺伝子変異が家族性アルツハイマー病で確認されており、APPからのAβ切り出しの過程がアルツハイマー病発症に重要であることが強く示唆されています。APP 自体の生理的機能についてはまだ不明な点が多いのですが、神経系と他の臓器とではその機能が異なると考えられています。

免疫抗原 ： Human sAPPαの C端部分合成ペプチド (DAEFRHDSGYEVHHQK)

起源 ： マウス×マウス ハイブリドーマ
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 ： 2B3 サブクラス ： IgG_{2b}

精製方法 ： 抗原特異精製

包装形態 ： 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 ： 精製水 1.0 mL 添加（この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 ： 2～8°C 保存 5年間安定
溶解後 -20°C 保存 2年間安定

使用目的及び使用方法 ： ウエスタン･ブロッティング 2～5 µg/mL にて使用可能
： 免疫沈降法 3 µg/test にて使用可能

特異性 ： sAPPβ と非交差
ウエスタン･ブロッティングではリコンビナントの全長 APP と非交差
： マウス、ラットと交差

文献 ：
1. Citron M, Oltersdorf T, Haass C, McConlogue L, Hung AY, Seubert P, Vigo-Pelfrey C, Lieberburg I, Selkoe DJ. Mutation of the beta-amyloid precursor protein in familial Alzheimer's disease increases beta-protein production. Nature. 1992 Dec 17;360(6405):672-4.
2. Goate A, Chartier-Harlin MC, Mullan M, Brown J, Crawford F, Fidani L, Giuffra L, Haynes A, Irving N, James L, et al. Segregation of a missense mutation in the amyloid precursor protein gene with familial Alzheimer's disease. Nature. 1991 Feb 21;349(6311):704-6.
3. Selkoe DJ. Normal and abnormal biology of the beta-amyloid precursor protein. Annu Rev Neurosci. 1994;17:489-517.

株式会社 免疫生物研究所
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp

040127/FT
080411/KK
100114/KK
110414/KK
120703/KK